

4 門司港レトロ・和布刈地区

九州最北端の港町リゾート『門司港レトロ』

(1) 地域の強み

ア 門司港レトロ・和布刈のまちについて

門司港レトロ地区は、明治時代後半から欧州航路の寄港地や、満州などへの貿易船の着港により日本三大港の一つとして数えられ、重要な国際貿易の拠点となりました。また、瀬戸内海国立公園内に位置する和布刈地区は、関門海峡のダイナミックな潮の流れや、本州から架かる関門橋を一望でき、多くの人の憩いの場となっています。

現在では、関門海峡エリアが「関門“ノスタルジック”海峡～時の停車場、近代化の記憶～」として日本遺産に認定されるなど、門司の風景や観光資源は全国的に認められています。

当時の門司の繁栄を偲ばせる歴史的建造物の「旧門司三井倶楽部」、「旧大阪商船」、「旧門司税関」などが立ち並ぶJR門司港駅を中心にしたレトロなまちなみや、関門海峡を一望できる和布刈地区からの景観は、市内随一の観光スポットになっています。

イ まちの魅力

- 美しく雄大な関門海峡の景観
- 旧門司三井倶楽部や三宜楼など歴史的建造物が多く現存する大正ロマンあふれる街並み
- 日本夜景遺産に登録されている和布刈公園第二展望台や門司港レトロ展望室
- 大自然と豊富な歴史遺産のある和布刈公園
- 世界的にも珍しい歩行者専用の「関門トンネル人道」
- 豪華クルーズ船など国内外の船舶が寄港し、多種多様な人々が交流
- 出光美術館や門司港美術工芸研究所などアートや文化施設が集積
- 若者に人気がある清滝地区の路地裏探索

ウ アクセスなど

- 国指定重要文化財「門司港駅」から徒歩圏内
- 対岸の下関市までアクセスの手段が多様（連絡船、関門国道トンネル、関門橋、鉄道）
- 門司港レトロから和布刈公園まで観光列車「潮風号」が運行



和布刈公園第二展望台からの夜景



「MOJIKO」モニュメント



関門トンネル人道

(2) 課題と主な取組

門司港レトロ・和布刈地区には、関門海峡や歴史的建造物の街並みなどの魅力を求めて現在でも多くの観光客が訪れています。これからもより多くの観光客を魅了し続け、ファン・リピーターを作るためにも、新たな魅力の発掘や観光資源の磨き上げ、快適な滞在環境の整備などに取り組み、この地区自体の魅力向上を図ることが求められます。

ア 門司港の特色を活かしたブランディングの構築

【推進していく主な取組】

- 新たなキャッチフレーズ“九州最北端の港町リゾート『門司港レトロ』”の打ち出し
- “港町リゾート”に似合う高級感のあるブランドデザイン(統一感のある案内標識、イベントのあり方)

イ 魅力的な地元資源の発掘・磨き上げ

【推進していく主な取組】

- リゾートの雰囲気醸成するまちづくり(トロッコ列車沿線の植栽など)
- 集客力のあるパブリックアートなどの整備

ウ 属性に応じた戦略的なプロモーションの強化

【推進していく主な取組】

- 観光DXを活用したプロモーション戦略(IoTセンサー活用による行動実態データの把握など)
- 清滝地区でアーティストが集い・住まう取り組みの促進

エ 滞在時間の長時間化

【推進していく主な取組】

- 門司港レトロ～和布刈間の水上交通の可能性調査の実施
- 休憩施設の新設による周遊導線の拡張
- 関門連携による新たな周遊ルートやイベントの開発

オ 多様なニーズに対応できる人材の育成・登用

【推進していく主な取組】

- 民間企業、DMOなどと行政との人事交流
- 来訪者のニーズに一貫して対応できる地域ガイドの育成

カ インバウンドの取り込み

【推進していく主な取組】

- FIT(個人旅行者)の誘致強化
- 複数の地域資源の掛け合わせによる旅行商品の開発

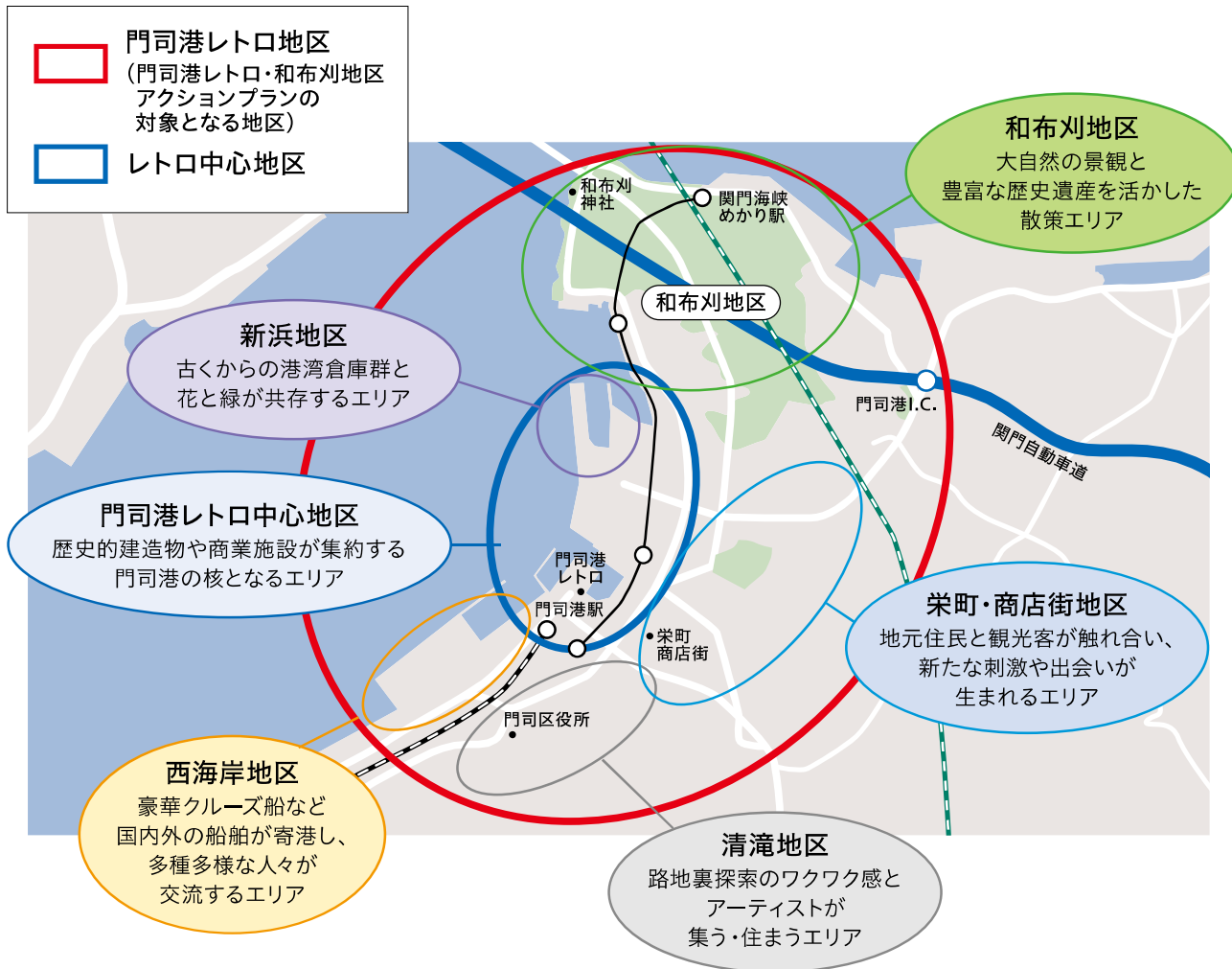


海峽プラザ



北九州銀行レトロライン潮風号

(3) 取組のイメージ



第6章

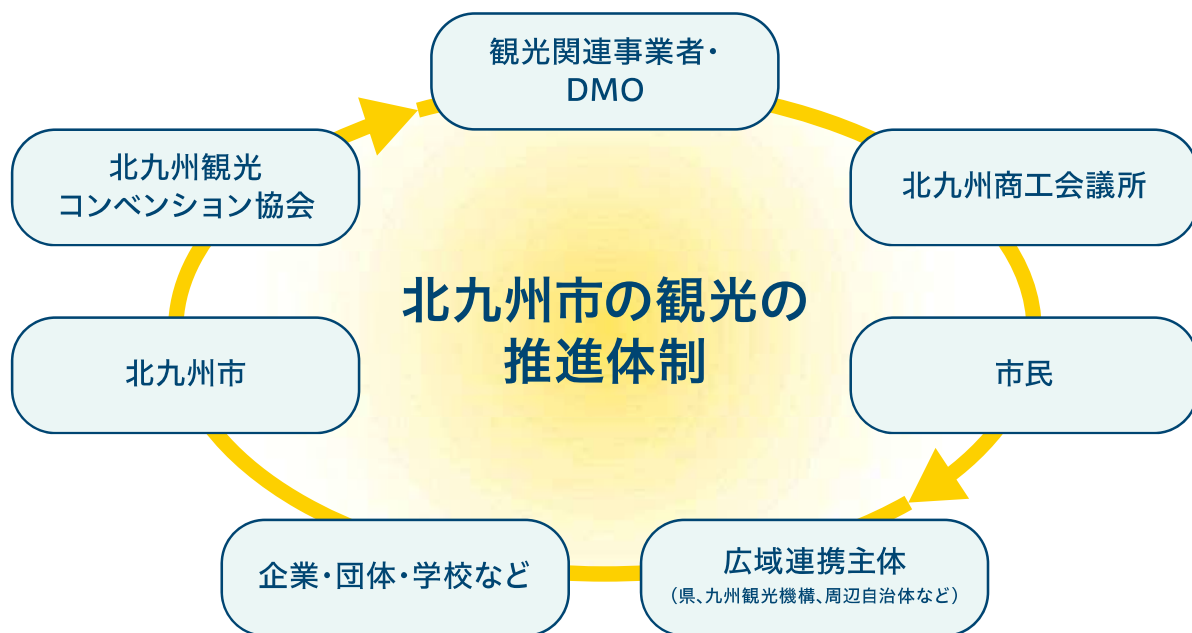
プランの推進に向けて

1 推進体制

「暮らす人」「訪れる人」がともにわくわくする観光・交流都市というプランの目指す姿の実現に向け、観光関連事業者・DMO、北九州商工会議所、北九州観光コンベンション協会、企業・団体・学校、市民、行政といった、観光に関連する様々な主体と連携していきます。

また、市役所の関係部局や、広域観光振興推進のための周辺自治体などとの連携も強化しながら推進します。

図10 北九州市の連携主体



2 推進スケジュール

観光振興プランは、令和5（2023）年度から令和9（2027）年度の5年間のプランとします。

3 プランの見直し、評価体制

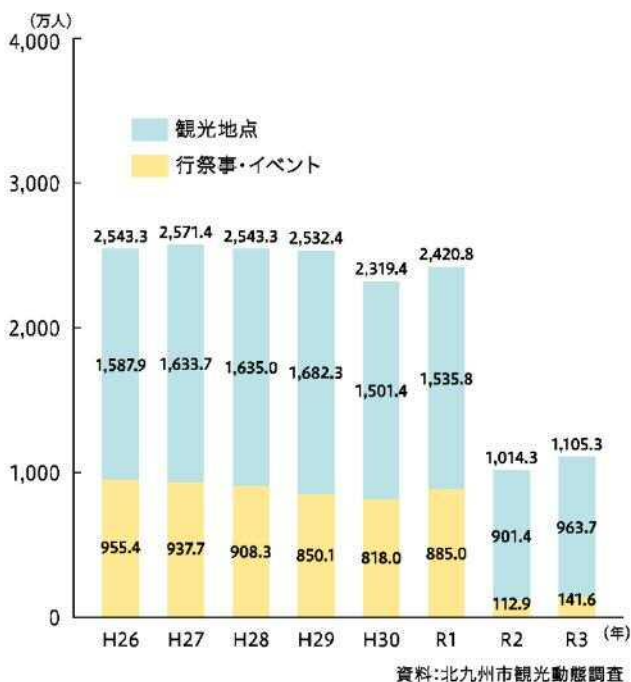
観光振興プランの進捗状況の確認・評価や見直し・改善に向けて、有識者などに意見を求めています。特に、インバウンド需要などのコロナ禍からの回復、コロナ禍による社会変化など、不透明な状況が続くことが予想されるため、必要に応じて戦略などの見直しや追加も検討していきます。

資料編

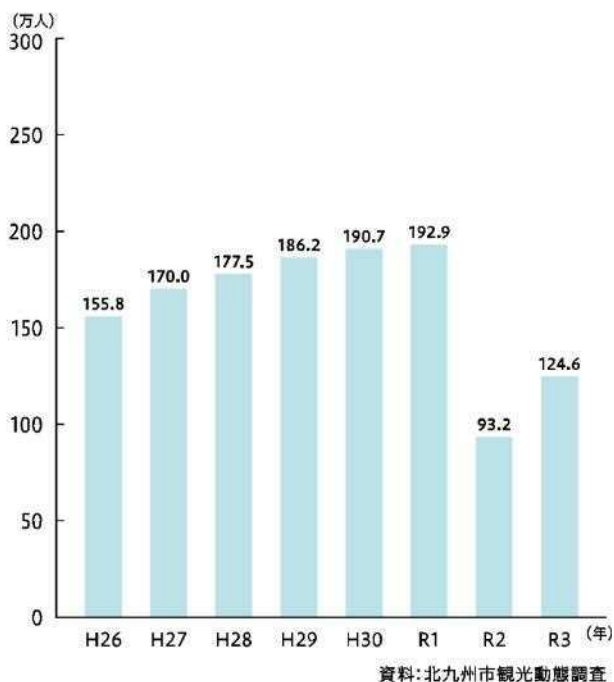
1 統計データ、各種調査の実施・公開

使用データ 北九州市観光動態調査
観光庁全国観光入込客統計に関する共通基準集計表
観光庁宿泊旅行統計調査

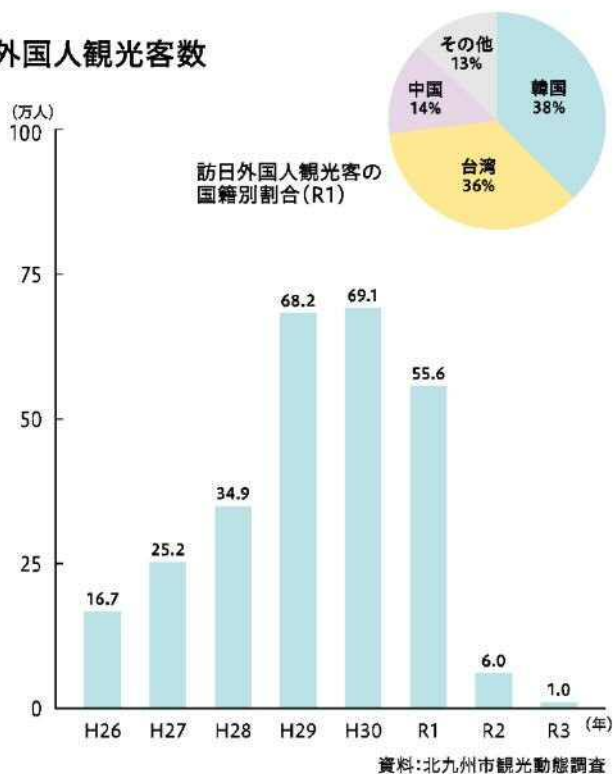
観光客数(延べ人数)



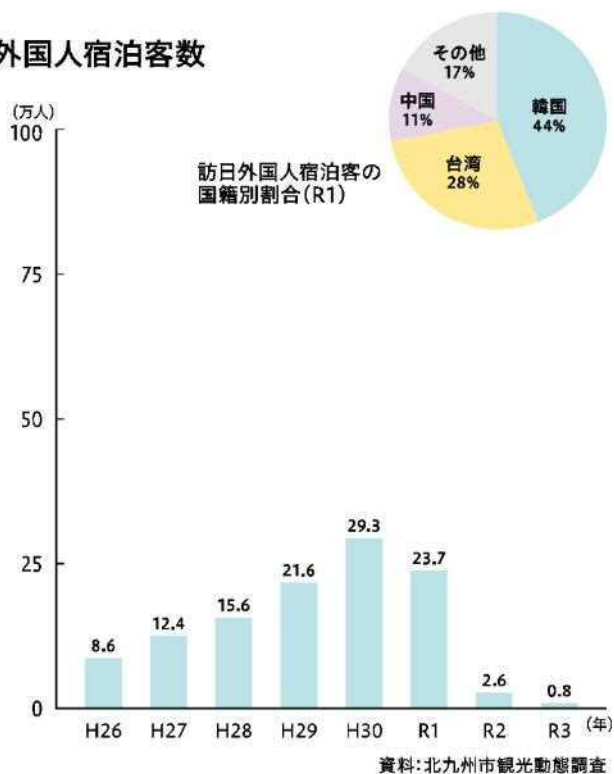
宿泊客数(実人数)



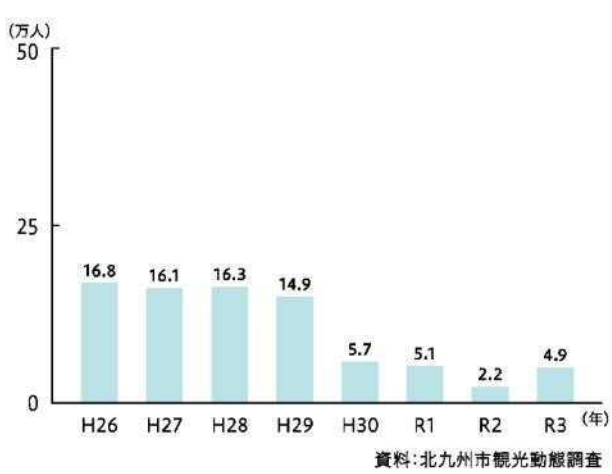
外国人観光客数



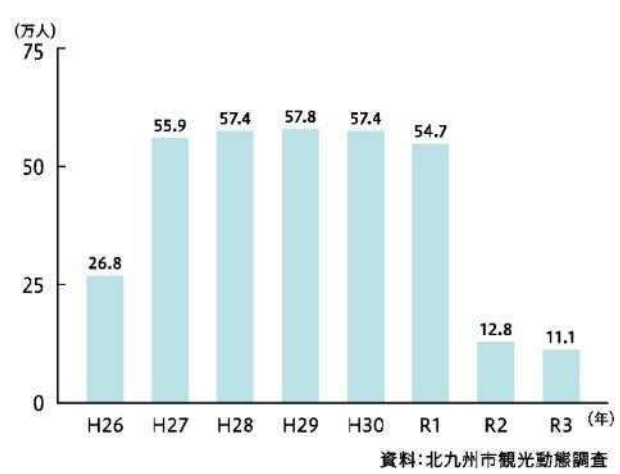
外国人宿泊客数



修学旅行生数

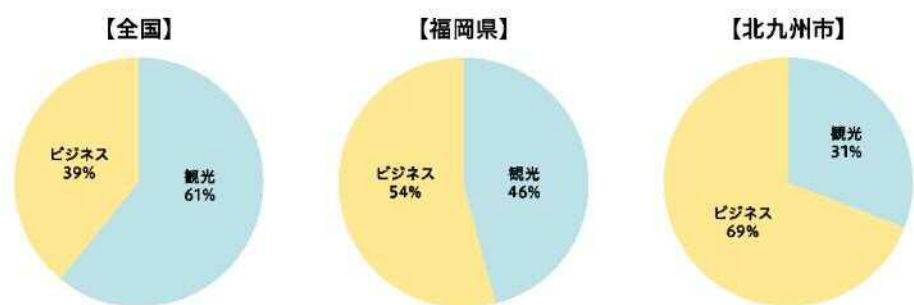


産業観光客数



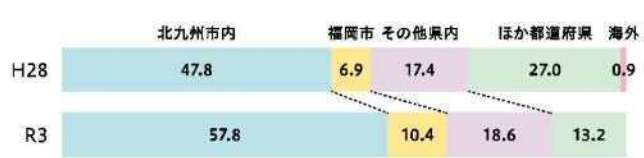
来訪目的

宿泊客における来訪目的

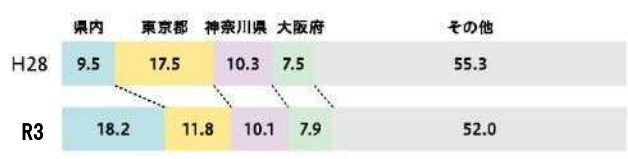


観光客の居住地

【観光客の居住地】



【宿泊客の居住地】



資料:【観光客の居住地】北九州市観光動態調査
【宿泊客の居住地】観光庁宿泊旅行統計調査

観光消費額



2 観光振興プラン検討会名簿

(8名、五十音順、敬称略)

No.	氏名	所属・役職
1	入江 昭彦	北九州ホテル協議会 会長 (JR九州ステーションホテル小倉(株) 顧問)
2	植田 詩生	北九州ノコト 編集長
3	後小路 雅弘	北九州市立美術館 館長
4	加倉井 良多	日本旅行業協会 九州支部 北九州地区委員長 (株)JTB 北九州支店長)
5	菅本 美空	西南女学院大学 学生
6	福島 規子	九州国際大学 現代ビジネス学部教授(観光学博士)
7	マッコームズ 夏野	北九州商工会議所 運輸交通部会企業 (株)スターフライヤー 営業本部マーケティング部シニアマネージャー)
8	南 博	北九州市立大学 地域戦略研究所 副所長

3 観光振興プラン検討会の開催状況

日程	検討内容
第1回 (令和4年7月12日)	● 観光振興プラン策定にあたっての現状整理
第2回 (令和4年8月24日)	● 市政モニターアンケート結果の報告 ● 観光振興プランの概要(案)の検討
第3回 (令和4年11月22日)	● 観光振興プラン(素案)の検討
第4回 (令和5年3月)	● パブリックコメント実施報告 ● 観光振興プラン(成案)の報告

北九州市観光振興プラン

発行年月日 令和5年4月

編集・発行 北九州市(産業経済局観光課)

〒802-0001 北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号 AIMビル4階
TEL093-551-8150 FAX093-551-8151

「暮らす人」「訪れる人」が、ともにわくわくする観光・交流都市

北九州市 観光振興プラン

ゲストとして迎え、友人として送り出そう